

## 音楽部会活動紹介

平野 次郎

### 1 部会の構成・運営と主な活動

本部会は、国立大学の附属学校に所属する音楽科教員が中心となり構成されており、本年度は全国で30校の登録があった。本部会のように、国立大学附属学校の教員（音楽科）で構成されている会は貴重ではあるが、コロナ禍においては会の存続や方向性についての議論が交わされた。しかし、附属学校の存在意義や存続意義がうたわれる今、我が国の音楽科教育の向上、発展に資することを目的として、今年度も今の時代に即した部会の在り方を模索しながら、運営を継続している。

本部会の主な活動は、毎年夏に開催している「日本教育大学協会 全国音楽科部会研究大会」である。大会に際しては、東京学芸大学附属学校の音楽部、筑波大学附属学校の音楽部等が運営、事務局を担い、大会の企画、宣伝、連絡調整等を行っている。近年は、国立大学附属学校教員の人事異動の周期が早まり、連絡調整に苦慮している実情もあるが、様々な連絡手段を用いて、附属学校教員とのネットワークを構築している。以前は、運営や事務局、代表等の選出は広域で行っていたが、会の継続性や附属学校教員への負担軽減等の観点から、東京地区（東京学芸大学附属学校、筑波大学附属学校等）が様々な運営業務を担い、安定した運営が継続している。

今年度の「日本教育大学協会 全国音楽科部会研究大会」は、令和7年8月19日（火）に開催し、全国から約50名の参加があった。実践発表では、大傳正樹先生（千葉大学教育学部附属小学校）「長唄囃子風のリズムに親しもう」、中村征司先生（奈良女子大学附属小学校）「音から形へ LittleBits Synth Kit × LEGO でひらく創造の STEAM 学習 -音楽と造形をつなぐ学び-」、島本政志先生（大阪教育大学附属平野小学校）「子どもと地域を紡ぐ『郷土芸能』教材化の視点 -平野郷だんじり囃子『囃子詞』『龍踊り』実践から-」、興梠徹先生（大阪府箕面市立第五中学校）「VR 映像を活用した音楽科鑑賞学習による実践」と、4名にご登壇いただき、STEAM 学習や VR から長唄、郷土芸能と幅広い内容の発表をいただいた。興梠先生は、現在は公立中学校勤務だが、以前附属学校に勤務された経験があり、本大会を通して再び附属学校教員と交流できる貴重な場になった。

ワークショップは、新潟大学名誉教授の伊野義博氏にご登場いただいた。「呼びかけとこたえ×ことば×伝統」と題して、講義形式ではなく、我々も実際に表現したり、創造したりしながら、学び多き時間となった。また、今回は新たな試みとして、附属学校教員と伊野氏とのトークセッションを行った。附属学校教員の実践について伊野氏が価値付けや助言をしたり、参加者との意見交換をしたりと、充実した時間となった。

コロナ禍ではオンラインでの開催も行ったが、対面開催に戻して2回目となった本大会も盛会に終わった。また、ここ数年は参加要件も拡大し、附属学校教員に限らず、公立学校、私立学校、学生の参加も増えつつある。国立大学附属学校が中心となる本部会ではあるが、夏の研究大会においては、今後も幅広く参加を募り、全国の音楽科教員との交流を深めていくこととする。

### 2 本年度の活動より -全国音楽科部会研究大会 概要報告-

- (1)総会
- (2)実践発表

### 【発表1】

長唄囃子風のリズムに親しもう

大傳正樹先生(千葉大学教育学部附属小学校)

### 【発表2】

音から形へ LittleBits Synth Kit × LEGO でひらく創造の STEAM 学習-音楽と造形をつなぐ学び-

中村征司先生(奈良女子大学附属小学校)

### 【発表3】

子どもと地域を紡ぐ「郷土芸能」教材化の視点 -平野郷だんじり囃子「囃子詞」「龍踊り」実践から-

島本政志先生(大阪教育大学附属平野小学校)

### 【発表4】

VR 映像を活用した音楽科鑑賞学習による実践

興梠徹先生(大阪府箕面市立第五中学校)

### (3)トークセッション

登壇者:高橋詩穂先生(京都教育大学附属桃山小学校)

高倉弘光(筑波大学附属小学校)

司会:平野次郎(筑波大学附属小学校)

指導・助言:伊野義博先生(新潟大学名誉教授)

### (4)ワークショップ

「呼びかけとこたえ × ことば × 伝統」

講師:伊野義博先生(新潟大学名誉教授)

### (5)諸連絡・閉会

## 3 今後に向けて

本部会の運営については、東京地区(東京学芸大学附属学校、筑波大学附属学校等)が担うこととなり、夏の「全国音楽科部会研究大会」を筆頭に、活動が安定してきている。また、附属学校音楽科教員の交流も本部会を通して、盛んに行われるようになった。そして、「全国音楽科部会研究大会」では、公立学校、私立学校、学生の参加も増え、日本の音楽科教員にとって、貴重な研究、交流の場になっている。また、以前国立大学附属学校に勤務していた先生方も新たな所属先から参加するケースも増え、本部会の役割も多様化していると感じる。

各方面から予算削減の声が届くが、本部会運営のためには、日本教育大学協会からの助成金の存在も大きく、今後も本部会の存在意義を明確に抱きながら、会の存続と発展に努めていく所存である。

(令和 7 年度音楽部会代表・筑波大学附属小学校教諭)